

# BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.65

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kankyou-kendo/kankyou/junkan/biomass/index.html>



平成27年3月20日

バイオマスプロジェクトチーム  
(環境生活部 資源循環推進課)

## ごあいさつ

いまバイオマスといえば、再生可能エネルギーのひとつとして発電への利用が特に注目を集めています。固定価格買取制度によって、今後、発電利用の進展が期待されますが、循環型社会の形成や地球温暖化防止の観点からは、より幅広い分野でバイオマスの利活用を一層進めていく必要があります。

当チームでは今後とも「千葉県バイオマス活用推進計画」に基づき、バイオマスの利活用推進を図ってまいりますので、皆様には引き続き御協力をお願いいたします。

## 1. トピックス

### ○平成26年度バイオマス利活用研修会 (平成27年1月19日)

バイオマスの利活用について、県民の皆様の理解を深めていただくため、千葉市ビジネス支援センター(きぼーる)にて研修会を開催しました。



当日は、80名の方にお集まりいただき、まずは「バイオマスとは？」から始まる基礎的事項について講義を行いました。

次に、実際の取組を紹介することでバイオマスを身近に感じていただくため、山武市と(株)市原ニューエナジーの御協力のもと、市町村及び企業の取組事例を紹介しました。

取組事例のひとつとして、「木質バイオマス燃料利活用等について」と題して、山武市経済環境部わがまち活性課バイオマス推進室の秋葉室長と並木主査補から御講演をいただきました。山武市では「さんむ木の駅プロジェクト(木材流通システム事業)」、「間伐材等のペレット利用」、「市内産木材利用促進事業」、「バイオマス体験棟を利用した事業」、「木質バイオマス利活用調査事業」等を行っているとの紹介がありました。

もうひとつの取組事例として、「廃棄物を燃料とする発電及び熱供給」と題して、(株)市原ニューエナジー事業推進部次長の斎藤雅博氏から御講演をいただきました。(株)市原ニューエナジーでは、廃棄物の焼却熱を廃熱ボイラで熱回収して蒸気を発生させ、蒸気タービン発電機により高効率発電を行い、場内電力に使用するとともに電力事業者に売却しており、また、さらなる熱利用として、タービン排気から回収した熱で温水を作り、隣接する農業用温室へ供給しているとの紹介がありました。

来年度も県民の皆様を対象とした研修会を開催し、事例紹介等を行うことで、バイオマス活用への更なる関心を高めていただきたいと考えております。

### ○千葉県短期海外研修（平成27年2月2日～8日）

県では「バイオマス活用推進計画」を策定して、バイオマスの利活用推進に取り組んでいるところですが、家畜排せつ物、食品廃棄物、農作物残さ、汚泥等の主なバイオマス資源のうち、木質バイオマスの利活用があまり進んでいません。

このため、今後の導入推進策の検討に活用するため、木質バイオマスエネルギー利用の先進国であるオーストリア共和国における事例を調査しました。

訪 問 先	オーストリア共和国（ギュッシング市 他）
研 修 期 間	平成27年2月2日（月）～2月8日（日）
調査結果概要	

#### ＜ギュッシング市での取組＞

ギュッシング市ではEUから援助を受け、1996年から広域的な地域暖房網を整備しています。

市の面積の約半分を森林が占めるため、豊富な木質バイオマスを利用して、市内の6か所に設置した地域熱供給プラントから市街地・産業施設へ熱供給を行っています。（熱配管総長 35km、対象人口 3,600人）

現在のエネルギー自給率は熱分野で85%、電力分野で50%となっています。



再生可能エネルギー・ヨーロピアンセンター



地域熱供給プラント

ギュッシング市ウルバースドルフ地区（対象人口 350人）では、地域住民が熱供給施設を運営する組合を設立し、太陽熱パネル（240 m<sup>2</sup>）、木質チップボイラー、予備温水タンク、熱配管総長 2.6km の地域暖房網を整備しました。

主に太陽熱を利用して熱供給し、足りない分を木質チップボイラーで補っています。



ウルバースドルフ地区地域暖房施設

## 2. 市町村等との連携

### ○平成26年度廃棄物対策清掃事業研修会（平成26年8月19日）

市町村や一部事務組合の廃棄物・清掃担当職員を対象とした研修会が千葉県教育会館新館にて開催され、当チームでは「バイオマス活用推進計画」について講義を行いました。

県内では、バイオマス活用推進基本法に基づきバイオマス活用推進計画（市町村計画）を策定した市町村はまだありません。計画の策定が義務規定ではないことや、全ての市町村がバイオマスの活用に取り組みやすいわけではないことがその理由と考えられます。

これからバイオマスの活用積極的に取り組んでいこうという市町村は、「計画作成の手引き」（下記URL）を参考に、計画の策定について御検討願います。

([http://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/b\\_kihonho/local/keikaku\\_sakutei.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/b_kihonho/local/keikaku_sakutei.html))

## 3. 関連業務

### ○平成26年度エコフィード・TMRコーディネート推進事業

#### 「第1回・第2回利用推進会議」

千葉県畜産協会の主催により、平成26年12月18日に第1回利用推進会議が県畜産総合研究センターにて開催されました。



第2回利用推進会議

平成26年度事業概要、エコフィード・TMR利用推進に関する今後の取組について、畜産協会から説明があった後、関係者で情報交換が行われました。

また、平成27年3月11日には、第2回利用推進会議が県畜産総合研究センターにて開催され、平成26年度事業実績について畜産協会から説明があった後、関係者で情報交換が行われました。

### ○平成26年度エコフィード研修会（平成26年10月2日）

千葉県畜産協会の主催により、香取市山田公民館にて研修会が開催されました。

ファームサポートかとり(株) TMRセンター視察の後、ファームサポートかとり(株)代表取締役の長嶋透氏から、「耕畜連携による高品質TMR生産」について講演がありました。

### ○平成26年度木質バイオマス利用拡大事業

県農林総合研究センター森林研究所では、県内のバイオマス先進事例の調査として、山武市内で行われている「さんむ木の駅プロジェクト」の実態調査を行いました。

「さんむ木の駅プロジェクト」とは、会員が山武市内の森林で発生した未利用の木材を「木の駅」に持ち込むと、一定額で買い取る制度です。調査の結果、木材は多く集まりますが、その木材の利用がなかなか進まない実態が見えてきました。



木の駅に集められた未利用木材

## 4. 普及啓発活動

### ○各種イベントでの木質プラスチック製品配布等による普及啓発活動の実施

下記イベントにおいて、木質プラスチック製品やバイオマス関係パンフレットを配布する等、普及啓発活動を行いました。

イベント名	開催日	開催場所
第14回全国菜の花サミット in 神崎	4月26日	神崎ふれあいプラザ
青葉の森公園GWイベント	5月3日	千葉市青葉の森公園
マイバッグキャンペーン	6月17日	アピタ君津店
マイバッグキャンペーン	6月21日	アピタ市原店
2014 ちばし環境フェスティバル	6月30日	千葉市文化センター
エコメッセ2014 in ちば	9月23日	幕張メッセ国際会議場
青葉の森公園秋のフェスティバル	10月25日	千葉市青葉の森公園
平成26年度千葉県3R推進シンポジウム	10月30日	千葉市美浜文化ホール
千葉県農林総合研究センター公開デー	11月1日	千葉県農林総合研究センター

<イベントの様子>



【青葉の森公園GWイベント】



【2014 ちばし環境フェスティバル】



【エコメッセ2014 in ちば】



【平成26年度千葉県3R推進シンポジウム】